



安城市議会議員 石川つばさ通信 NO36

# 市政レポート

## 災害ボランティアセンター マニュアル見直しへ



### 台風 19 号で体制不備

10 月 12 日に上陸した台風 19 号は、中日本から東日本にかけての広い範囲に甚大な被害をもたらしました。

長野市では上陸から 4 日後の 16 日に災害ボランティアの受入れが始まりました。ただ、受入れる側の体制が十分ではなく、最も被害の大きかった市北部はボランティアの受入れが遅れてしまったとのこと。同様の問題は多くの自治体で生じており、受入れ体制の強化が必要です。

センターを設置するかしないかを市が判断し、発災から 72 時間以内に市役所さくら庁舎に開設されます。センターの運営はマニュアルに基づいて行うことになっており、ボランティアの受入れを担当するコーディネーターは 20~30 人と想定されています。

ただ、現在のマニュアルはセンター開設の判断基準が不明確です。また、長野市をはじめ被災地の事例も踏まえ必要な人員を研究する必要があることから、市は本年度、マニュアルの見直しを行うことにしています。

### 安城市は？

安城市で大規模災害が発生した場合、ボランティアの受入れは、市と社協が共同運営する災害ボランティアセンター(以下、センター)が行います。被災状況によって



市役所さくら庁舎(旧婦人会館)

# 意識の変革を

## 「大洪水は必ず発生する」

治水などについてまとめた、「安城市雨水マスタープラン」が来年度に計画期間満了を迎えるにあたり、市は現在、次期プランの策定を行っています。

その策定審議会の中で、「ハード整備だけでは限界がある、もっとソフト対策に力を入れるべき」との意見が委員から出されていることが分かりました。

河川についてはこれまでもハード整備が行われてきましたが、こうした整備には今後も長い時間がかかります。他方で、昨今の豪雨は規模、頻度ともに従来の想定を超えるものになっています。

こうした事を踏まえ、次期プランは、「水害は施設整備によって発生を防止するもの」から「施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの」へ意識を改め、その考えに沿った内容となることが見込まれます。

次期プランは審議会を重ね、パブリックコメントを経て、2021年3月に公表される予定です。

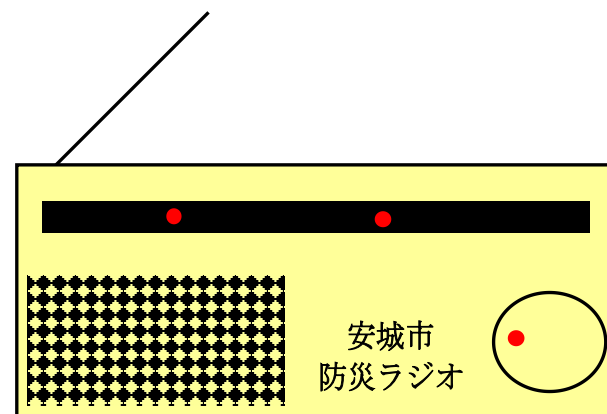
# 防災ラジオ 2台目も購入可能に

災害情報を伝達する防災ラジオについて、来年度から2台目の購入も可能とする方針であることが分かりました。

防災ラジオは、日頃は通常のラジオとして使用できますが、災害時にはラジオを聞いていなくても、避難勧告などの緊急災害情報が強制的に発信される仕組みになっています。

これまでは1世帯1台の制限がありましたでしたが、購入から5年が経過した世帯については2台目の購入を可能とする方針です。

詳細については、2020年度予算が固まる3月末以降に発表される見込みです。



# 1000年に一度の大雨で 避難所 1/3 閉鎖

安城市内には、民間との協定によって使用できる臨時避難所を除き、62ヶ所の公共の避難所が存在します。(表1)

この内、約3分の1にあたる22の避難所が大規模水害時には使用できないと10月1日号の広報で発表されました。どこの避難所が使用できなくなるか詳細は広報同号か、市HPをご覧ください。

この件について市は、「国交省が公表した、1000年に1回程度と想定される大雨による浸水域が拡大したのに伴って見直しを行った結果、22の避難所について使用できないと判断した」としています。

市は、当該避難所が開設不可能と判断した場合は、市のHP、フェイスブック、ケーブルテレビKATCHネットワーク、ピッチFMなどを使い、その周知を図っていくとしています。

あくまで1000年に1回規模の大雨のケースであり、10年に1回程度の大雨や地震などの際には避難所として使用されます。

表1

公民館避難所 (地区公民館)	11ヶ所
一般避難所 (学校など)	43ヶ所
福祉避難所 (福祉センター)	8ヶ所
合計	62ヶ所

## 安城公園に フラミンゴ



毛繕いに励むフラミンゴ

12月16日、市役所と隣接する安城公園にフラミンゴが仲間入りしました。動物舎に向かって一番右のスペースに居ます。市役所や市民会館にお越しの際は、是非お立ち寄りください。

## ふつうに働いて

## ふつうに生活する

“冷戦終結”から30年が経ちました。資本主義と社会主義が鋭く対立した冷戦は、ベルリンの壁の崩壊などを経て、1989年末のマルタ会談で終結しました。核戦争のリスクが低減する一方で、「社会主義はダメだ、資本主義が唯一の選択肢だ」と認識される時代が始まりました。

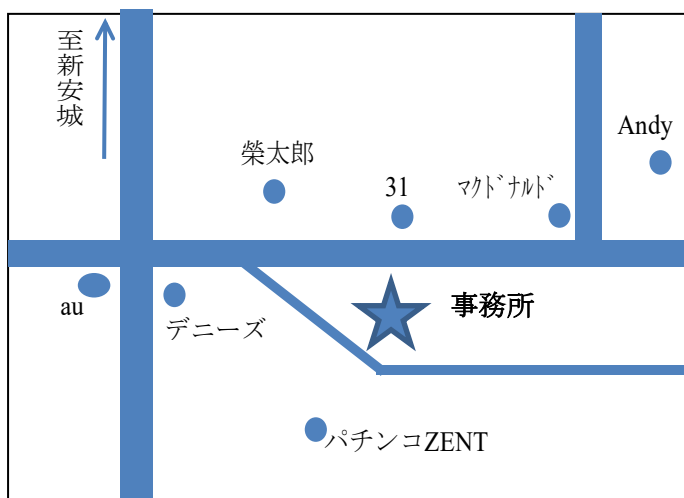
34才の私にとっては、物心ついた時から資本主義一択の時代でしたが、この30年は勝者であったはずの資本主義にとっても衰退の時代でした。私の世代は、幼稚園の頃に微かなバブルの香りに触れたのを除き、「失われた30年」以外の経験がありません。

“冷戦終結”から30年

30代が見たその後の世界

この間、企業減税、規制緩和など様々な施策がありましたが、いずれも実を結んでいません。そればかりか、格差拡大や過労死を招きました。30年余の半生を通じてこうした光景を見ていると、どんな施策を打っても再生の兆しのない資本主義そのものの制度疲労に思えてなりません。

昔の社会主義は確かに失敗しましたが、その結果をもって全否定する必要はないはずです。働く人々や平等を重要視するその理念こそ今日求められており、次代に向け、新たな社会主義を模索すべき時期が来ているのではないのでしょうか。



## 石川つばさ事務所

安城市住吉町荒曾根 1-245 アラズビル2F 南  
 電話 0566-98-6932  
 FAX 0566-98-6931  
 メール [ishikawa2011@aria.ocn.ne.jp](mailto:ishikawa2011@aria.ocn.ne.jp)

当事務所では職場・地域の問題や法律の相談も行なっております。お気軽にご相談ください。